

# 群マネの手引き(骨子)について

---

# 「群マネの手引き」の段階的な公開

- 過年度までの先行事例調査で得られた知見を中心として、まずは**群マネの基礎や既存事例のノウハウ横展開を目的とした手引きVer.1**をR7年夏頃に公表予定。
- さらに、モデル地域での試行や関係部局との調整など更なる検討を加えた上で、**既存事例が乏しいパターンを解説する手引きVer.2**を公表予定(例:インセンティブの設計、広域連携スキームの構築等)。

(イメージ)

[手引き作成に当たっての作業原則]



+



## 原則①: 毒にも、薬にもならないことは書かない

- ・ 自治体職員が「分かっているよ」ということを長々と書いても、読者にとって時間の無駄。
- ・ 「●●が重要」、「●●が望ましい」は要注意表現。それだけで終わらないように気をつける。

## 原則②: 具体的なアクションを書く(HOW)

- ・ 「チェックリスト」で実施手順を解説(機械的に順を追えるように)。
- ・ 「フォーマット」や「サンプル」で、1歩目を踏み出せるよう付録を整備(協議や検討が発散しないように)。

## 原則③: 世の中の手引き系で一番読みやすくする

- ・ 分厚い読み物を作っても、自治体職員に読んでもらえなければ存在していないも同然。
- ・ 分量、文章表現、紙面構成、デザインにも心を配る。

# 「群マネの手引きVer.1」の骨子案

- 群マネ導入の必要性やメリットを紹介した上で、群マネの類型や先行事例、具体的な実施プロセス等を解説することで、導入検討から実践までサポートする。

章	見出し	記載概要
はじめに	—	—
1. 現状データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インフラメンテナンスの危機感（全国データ、自治体毎データ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラメンテナンスの危機感を共有するため、全国的なインフラ老朽化や自治体職員数の減少、小規模自治体の増加予測などのデータを示す。</li> <li>・さらに、危機感を自分事化してもらうため、自治体別データの分析例も示す。</li> </ul>
2. コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 群マネの概念</li> <li>● 群マネの期待される効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群マネの概念として、広域・多分野のインフラを「群」として捉え、自治体、事業者、技術者の「3つの束」で、スケールメリットや創意工夫により、メンテナンス業務を効率化していくという考え方を解説。</li> <li>・期待される効果として、発注者側で発注作業が効率化できるというだけでなく、受注者側でも作業効率の向上や創意工夫の発揮、人員・資機材の融通がしやすくなる、といった先行事例で実感されている声を紹介。</li> </ul>
3. メニュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 群マネの類型</li> <li>● 群マネの先行事例</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群マネの類型としては、多様なバリエーションがあり、広域連携（代行、共同発注、協議会等）、多分野連携（分野の組合せパターン）、事業者連携（JV・事業協同組合、域外業者の参画有無）のそれぞれで、地域の事情に応じて、選択していく必要があることを解説。</li> <li>・具体の実施イメージができるよう、すでに実践している先行事例での適用スキームや効果、留意点を紹介。</li> </ul>
4. 実施プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準的なステップ</li> <li>● 各ステップのQA</li> <li>● 苦労話などのエピソード</li> <li>● 群マネを進める上での心得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入検討のキックオフから実施方針の検討、事業者とのコミュニケーション、予算要求・発注手続き、事業実施、評価・次期事業の検討に至るまでをチェックリスト形式でたどれるように解説。</li> <li>・さらに、各ステップを一つずつ乗り越えられるよう、想定される壁へのQAや先行事例の苦労話などのエピソードなどを解説。</li> </ul>
5. 計画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治体計画に記載する意義</li> <li>● 関連計画例</li> <li>● 記載項目（群マネの実施方針）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群マネを計画的に推進できるように、自治体計画への位置づけ方法を解説（長寿命化関連や広域連携関連の計画）。</li> <li>・記載項目として、群マネの実施方針（対象範囲、広域連携スキーム、技術者連携メニュー等）を検討する際のポイントを解説。</li> </ul>
6. 相談窓口等	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群マネ導入のみならず、日頃のインフラメンテナンスに関する悩みを実際に相談できる機関等を紹介（人の群マネ）。</li> </ul>

# 「群マネの手引き」の対象範囲

- 「群マネの手引き」では、国土交通省所管分野のインフラメンテナンスについて、**従前の包括的民間委託の領域を越えた広域連携や多分野連携**の取組を解説。
- ただし、事業者連携やプロセス連携、長期契約、技術者連携など、広義の“群マネ”として、小規模自治体のインフラメンテナンスに有効と考えられる取組については幅広く盛り込む。

## 「群マネの領域(広域・多分野)」

	単一分野のインフラ	多分野のインフラ
単自治体	<b>従前の 包括的民間委託 の領域</b>	<b>新たな群マネの領域</b>
複数自治体		

※群マネの概念に該当するものの、別途ガイドライン等が作成されている取組については、本手引きでは詳述はしない。

例:

- 下水道分野の広域連携  
「広域化・共同化計画策定マニュアル(H31.3策定、R2.4改訂)」  
「広域化・共同化計画実施マニュアル(R6.4策定)」  
「下水道事業における広域化・共同化事例集(H30.8策定・R6.4更新)」
- 上水道分野の広域連携  
「水道広域化推進プラン策定マニュアル(H31.3策定)」

## \* 群マネの概念のバリエーション整理(広義と狭義)

	群マネの種類	発注	具体事例
狭義	広域連携	○	奈良モデル、静岡県・下田市、橋梁点検の地域一括発注
	うち、計画策定	△	長寿命化計画(奈良モデル)、集約再編計画(和歌山県)
	多分野連携	○	三条市、大館市、明和町、福島県、栃木県等
広義	「事業者」の“群マネ”	○	JV、事業協同組合の事例多数
	「プロセス」の“群マネ”	○	多摩市、田原本町等
	「時間軸」の“群マネ”	○	複数年契約の事例多数
	「データ」の“群マネ”	△	住民からの道路通報や受発注者間の情報共有のシステム多数
	「人」の“群マネ”	—	インフラメンテナンス国民会議、土木学会(LIMN等)、KOSEN-REIM、ハンズオン支援等
	「学」の“群マネ”	—	SIP等
	「住民」の“群マネ”	—	橋の歯磨きプロジェクト等

# 先行事例調査(調査自治体リスト)

- すでに業務実施段階に至っている**先行事例として、20事例を調査。**  
(広域連携:9事例、多分野連携:6事例、その他包括:5事例)

分類		事例
広域連携	橋梁点検等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奈良県(奈良モデル)</li> <li>・ 下伊那郡土木技術センター組合(長野県内13町村による一部事務組合)</li> <li>・ 上伊那広域連合(長野県内の8市町村による広域連合)</li> <li>・ 任意の協議会(秋田県内市町村と県建設技術センター等の協議会)</li> </ul>
	道路の日常維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島県(19市町へ移譲)</li> <li>・ 鳥取県(日野郡3町へ移譲)</li> <li>・ 静岡県(下田市と共同発注)</li> <li>・ 岐阜県白川村(富山県南砺市、岐阜県へ委託)</li> <li>・ 石川県内灘町ほか(任意の協議会で実施)</li> </ul>
多分野連携	性能規定を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福島県(道路+河川+砂防)</li> <li>・ 新潟県三条市(道路+河川+公園)</li> <li>・ 秋田県大館市(道路+河川)</li> </ul>
	性能規定を含まない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栃木県(道路+河川+砂防)</li> <li>・ 三重県四日市市(道路+河川)</li> <li>・ 三重県明和町(道路+公園)</li> </ul>
その他包括	道路の日常維持管理の包括化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都府中市</li> <li>・ 埼玉県さいたま市</li> <li>・ 沖縄県</li> </ul>
	橋梁のプロセス包括化 (点検+補修設計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都多摩市</li> <li>・ 奈良県田原本町</li> </ul>

※青字は複数年契約

# 地域インフラ群再生戦略マネジメント(期待される効果)

## 自治体、事業者、技術者の「3つの束」が、地域のインフラ群をマネジメントする戦略

【自治体】

【民間事業者】

背景

インフラの老朽化+技術系職員の不足

維持管理業務の収益性の低さ+担い手の不足

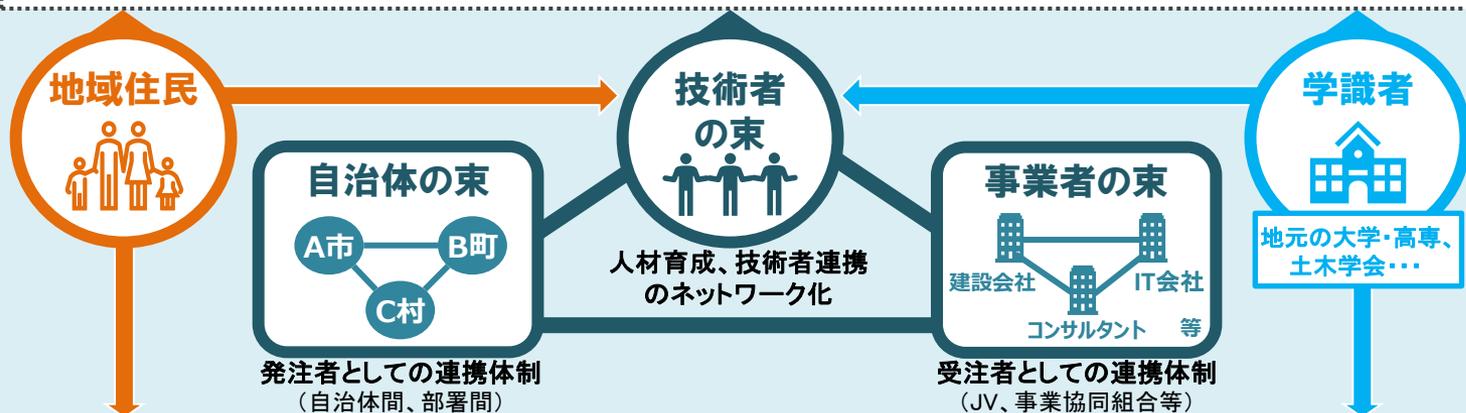
目指す姿

予防保全型のメンテナンスサイクルの構築へ

魅力的なメンテナンス産業の確立へ

3つの束

【地域インフラ群(広域・多分野)】



### メンテナンス業務のマネジメント戦略

インフラ分野を束ねる  
(道路、河川、公園...)

契約年数を束ねる  
(複数年契約)

業務プロセスを束ねる  
(点検、設計、補修工事)

創意工夫を引き出す  
(性能規定等)

× データ連携、  
新技術活用

スケールメリットや創意工夫により、メンテナンス業務を効率化

自治体職員の直営対応時間の縮減

維持管理業務の収益性向上

インフラ管理者として計画・マネジメントに注力

地域建設業の経営安定化・体制確保(人員、資機材等)

必要なインフラを次世代に引き継ぎ、  
地域の将来像を実現

インフラメンテナンスの  
社会的なプレゼンス向上

地域の災害対応力を向上し、  
地域の安全・安心を実現

期待される  
効果

# 先行事例における効果事例と試算可能な項目

Q. 広域連携や多分野連携等による効果事例にはどのようなものがあり、どのように計測しているか？

	発現した効果	計測方法	参考事例
発注者	● 発注作業や業務指示等にかかる対応時間が減少した(直営+委託でのトータルコスト削減)	職員の業務従事時間、業務委託費	新潟県三条市 他
	● 広域連携により、技術的知見が補完されるだけでなく、職員の技術力が向上した	職員ヒアリング	奈良県(奈良モデル) 他
	● 不調・不落件数が減少した	応札・落札件数	福島県 他
事業者	● 複数業務をまとめることで効率化された(パトロールを一括化、同じ現場で舗装補修と清掃等を同時作業、足場の共同利用等)	事業者ヒアリング	新潟県三条市、東京都府中市、秋田県大館市、静岡県・下田市、岐阜県白川村、三重県四日市市、奈良県田原本町 他
	● 書類作成や事務手続き等の手間が削減された(特にJV等の代表企業以外の構成企業)	事業者ヒアリング	静岡県・下田市、栃木県 他
	● 創意工夫を発揮しやすくなった(事業者提案による新技術導入、蓄積データ分析による先回り対応等)	事業者ヒアリング	新潟県三条市、秋田県大館市、東京都府中市、東京都多摩市 他
	● 事業者間の連携により、地元業者の技術力向上につながった	事業者ヒアリング	奈良県田原本町 他
	● 人員や資機材を確保しやすくなった(他工事との調整、事業者間の融通等)	事業者ヒアリング	新潟県三条市、福島県、沖縄県 他
	● 経営安定化により新たな雇用や設備投資が実現した	事業者ヒアリング、地域の事業者数や従業員数データ	新潟県三条市、福島県 他
住民	● 従前よりもサービスレベルが向上した(対応の迅速化、先回りの対応等)	市民アンケート(満足度等)、苦情件数データ	新潟県三条市、福島県、東京都府中市 他

赤字:導入前に効果試算が一部可能